

近現代における都市と農村

神奈川県 公立中学校教諭

1 概要

農村のくらしは、弥生時代以来、列島のくらしのもっともよく見られる風景であったといえよう。近代化によって、そうした庶民のくらしのありさまは大きく変化した。20世紀に入るところから都市にくらす人々が著しく増加し、労働者階級が出現した。しかし依然として地方では農村にくらす人たちが多く、都市と農村の人口がはっきりと逆転するのは、1960年頃である。

ここでは、19世紀末から20世紀初めにスポットをあて、おもに都市化の問題を取り上げつつ、その対になる農村の変化にも注目してみたい。中学生が学ぶ单元として、何とか庶民の生活の視点から近代化を捉えられるように工夫してみたい。

なお都市化の問題については、この教科書の著者である成田龍一氏に多くの研究がある。たとえば、「流民たちの「怨恨」」＜朝日百科『日本の歴史⑩近代Ⅱ』＞、「『故郷』という物語」、『横浜市史』等である。

農村の問題としては、周知の通り、寄生地主の成長、小作争議の多発などがあり、移民問題なども大きな歴史のできごとである。これらは後述するように、「やってみよう」をうまく利用することで整理できる。

ところで、この单元は、生徒が生活している場が農村であるのか都市であるのかによっ

て全く違った展開を想定すべきものである。私は、都市生活者であり、大都市の学校で教師をしているので、都市にくらす生徒を対象として構想した。その点ご容赦願いたい。

この試案は、教科書の見開きにとらわれず、数ページに渡る内容を、単元化して構成している。



「中学生の歴史 初訂版」p.178

2 教科書の特徴

帝国書院『中学生の歴史』では、庶民のくらしをていねいに取り上げ、時代の特徴を描き出そうとしていることに、その特徴がある。庶民の歴史は史料が残りやすく、公文書とくに執政機関の記録には現れてこない。よって、歴史研究の対象として扱うのに難しい面があり、研究が十分すすんでこなかった面がある。ある歴史事象が定説として確立しないと、教科書では取り上げづらいし、そもそも学習指導要領で、学習内容として示されない。

しかし、この教科書では特集ページを活用し、これらの題材を思い切り取り上げ、また、

学習指導要領でも問題解決的な学習や作業的な学習を重視する中で、「タイムスリップ」「歴史の舞台」「やってみよう」などをふんだんに用意し、庶民のくらしの変化について考えられるような工夫がなされている。さらに、良質な図像史料を多く用いているから、文書に残りにくい庶民のようすも読み取ることが可能である。

3 単元計画（6時間扱い）

本稿の最後にワークシートを示してあるので、参照しながらお読みいただきたい。

○都市と農村の違い

都市と農村について、クラスで自由に意見を述べさせる。まず、ここでイメージ化できないと、何を学習しているのかわからなくなってしまふ。農村を全く知らない都市の生徒も多く、まず、しっかり認識させたい。

気づいたことを黒板に出て書かせるとか、模造紙を用意しポストイットに書かせたものをはらせるとか、少し工夫した方が生徒にとって取り組みやすいかもしれない。黒板に書いたり、ポストイットに書いてはったりする方が、手をあげて意見を述べるより、多くの生徒の意見を取り上げられる。

○都市と農村、それぞれどう変わったか

あるいは、「江戸時代と大正時代で都市（町）と農村はどう変わったか予想してみよう」という入り方もよいと思う。みんなで予想したことをまとめて、教科書の本文や資料で検証していくという方法をとる。

●予想される意見

<都市（町）>

- ・士農工商 → 市民平等

- ・職人 → 工場で働く
- ・物価の上昇

<農村>

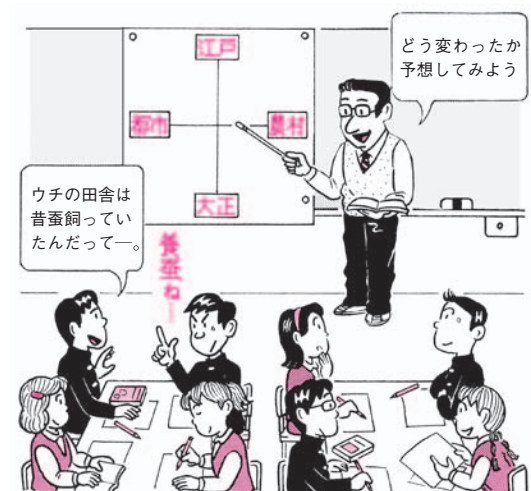
- ・年貢 → 地租
- ・商品経済の浸透
- ・養蚕が盛んになる

○みんなはいつごろこの町にきたのか？

都市部の（とくに大都市圏の）生徒であるなら、いったい自分の家族は、いつごろこの町にくらすようになったのか、問いかけてみるのも大切である。別にどこから来たのかを特定する必要はない。ただし、そこが農村、漁村、山村であるのか、やはり都市からの移住なのかは突き止めたいところである。所謂「田舎」があるのかどうかでもよい。いまだにあれだけの人々が盆と正月に帰省するようすを、毎年ニュースで見ていると、やはり、都市住民の「ふるさと」について考えさせられる。

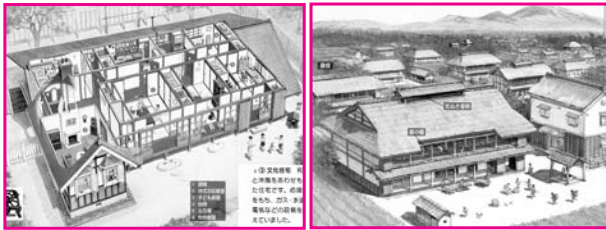
○やってみよう

教科書p.179 ■日本の工業化により、日本の農漁村と都市は、どのような変化がおこったか、表にして考えてみよう。



この活動をすることで、近代化にともなう課題を概念化させたい。商品経済の浸透、農村の階層分化などを、中学生なりにイメージさせたい。小作人、豪農、争議、労働者等の用語も捉えさせたい。また、移民についてもふれたい。

○教科書のイラスト比べ



「中学生の歴史 初訂版」p.196、198

上の二つのイラストを比較する。左の文化住宅のイラストから生徒は、今の自分たちの暮らしにつながる生活様式を探し出すことができると思う。農家のイラストでは、養蚕についての気づきがあるであろう。当然ながら、農家は自宅およびその周辺で生産活動が行われていることが読み取れると思う。

○タイムスリップ

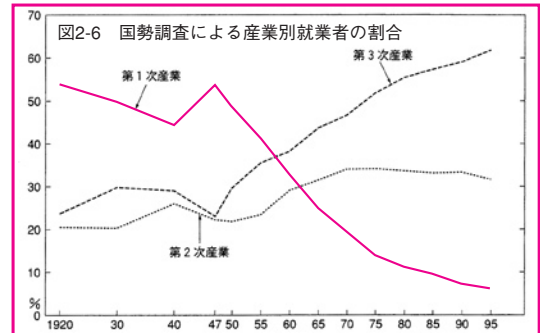


「中学生の歴史 初訂版」p.184～185

この写真からも、生徒は多くの情報をえることができるであろう。また、たくさんの疑

問も生まれるはずである。それらを漏らさず拾い上げて、つないでいくことが教師の役割である。耕耘機や寄宿舎の写真を見て、さまざまな気づきがあるはずである。その意見を次に、どうつなげていけるかが勝負どころといえる。

○産業別人口の変化のグラフ



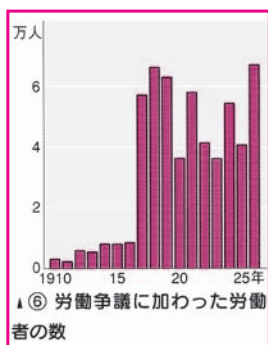
『数字でみる日本の100年』(国勢社)

このグラフに、自分の家族がいつごろ都市生活者となったのかという問いとを重ねてみると、いっそう理解が進むであろう。

大正期にはすでに第一次産業人口は50%台となっていて、太平洋戦争突入まではその比率が下がり続けている。1930年には50%を割っていることがわかる。このような社会の大きな変化が、列島の人々の暮らしにどのような影響を与えてきたか、生徒に意見を述べさせたいところである。

○労働争議

ここで、内容を歴史的事象へ引き戻す。これだけの人たちが都市に移り住むようになったことで、どのような問題が起きてきたか、教科書p.194～195に示されている。その中で、労働争議のグラフに注目させたい。争議については、ある程度具体的に説明しないと、今の中学生にはイメージしづらいであろう。



「中学生の歴史 初訂版」 p.195

○小作争議

小作争議については、具体的な事例が地域教材にあれば、ぜひそれを教材化するとよい。私は、ある地方農村の小作争議を教材化し取り組んでいるが、生徒の反応は上々である。とくに、同世代の子どもたちがつらい思いをして、働きに出されたりする事例を示すと、切実感が高まる。

また、今回は取り上げないが、学校の成立や教育の問題などもおもしろい。各地域に、「教育史」の類の書物はあるであろうし、小学校の周年記念誌や、地域素材を教材化した副読本などがあるはずなので、それらを利用して、当時の子どもをようすをたどるのは有効である。大正末期から昭和初期には、生活綴り方運動が展開され、それらの資料も多いであろう。子どもの作文などもよい教材となる。そうした中から、都市の子どもと農村の子どもの思いや願いが比較できたら、すばらしい実践となろう。

○思いや願い

庶民の生活をテーマに学習するときは、生徒の「思いや願い」を大切にしたい。生徒は日常生活の中で、さまざまな喜びや悲しみを経験している。その感覚が授業の中で生かされるとわかると、意欲的に取り組むようになる。庶民の生活について、歴史的な見方で分析す

る学習は、そうした子どもたちに歴史を学ぶ意味を見出させる可能性があるのである。

○政治の動きと人々の暮らし

こうした授業の中で、単元のおわりに、中央政治の動きとリンクさせて考えさせることは大切である。護憲運動、政党政治、普通選挙、治安維持法など、大きなうねりのような政治的な動きと、庶民の生活がどう関わっているのか、また関わっていないのか、考えさせてみたいものである。

4 評価場面と評価方法、評価規準

最後に、評価についてである。単元の評価規準をしっかりと練ってのぞむべきである。そして、具体的な生徒の姿を、たとえば、ワークシートの記入状況に対する評価として、どういう記述であればAなのか、あるいはBなのか、想定しておくことが大切である。

具体的な評価の手だてとして、ワークシートとは別のカードを用意するのも一考である。わら半紙を簡単に四つ折りにして折り目を付けただけの「カード」でも十分である。この方法だとあらかじめ項目を書いておくワークシートとは違って、教師が子どもとの学習の中で、適切な時期に適切な問いかけをすることが可能である。

5 おわりに

この単元構想は、かなり難しいものである。教師の力量が問われよう。しかし、実際にやってみると子どもがよく動き、意味深い学習となると思う。教師も、この教科書の特徴である「やってみよう」の精神でチャレンジしてほしい。

ワークシート例

<p>○都市と農村の違いって何だろう？</p>	<p>○産業別人口の変化のグラフから読み取れることを書いてみよう。</p>
<p>○いつごろ移り住んだ人が多いだろう？</p>	<p>○労働争議について調べ、まとめてみよう。</p>
<p>○教科書 p.179 やってみよう 〈■日本の工業化により、日本の農漁村と都市は、どのような変化がおこったか、表にして考えてみよう。〉</p>	<p>○小作争議について調べ、まとめてみよう。</p>
<p>○イラストを比べて気づいたことを書いてみよう。 ○タイムスリップを見て、気づいたことを書いてみよう。</p>	<p>○農村から都市に移り住んだ人たちの思いや願いは、どんなものだったのだろうか？ 想像してみよう。</p>